



経済情報コーナー

「日韓交流おまつり2011 in Seoul」への参加について

福島県観光交流局観光交流課副主査 笹川 純

福島県ではこれまで、東アジア諸国を中心として観光客の誘致に取り組んできました。特に、韓国については、福島空港と仁川空港を結ぶ定期便が週3便就航しており、ソウルから身近な観光地として毎年6万人を超える観光客が、ゴルフやスキーで訪れておりました。

しかしながら、2011年3月11日の東日本大震災ですべてが一変しました。地震や津波に加えて、東京電力福島第一原子力発電所の事故により、海外からの観光客の訪問が東日本全域で激減しました。特に本県は、原子力災害の影響を強く受け、数万人の県民が避難するとともに、原子力発電所から半径20kmは、警戒区域となっており、その被害規模も確定できない状況になっております。

その一方で、震災直後から、世界各地より数多くの支援が寄せられました。義援金、食料、水、千羽鶴、お見舞いの手紙、応援メッセージ等、これまでに経験したことのない困難に直面していた県民にとって、どれもが心強いものでした。

■ 「日韓交流おまつり2011 in Seoul」参加

世界各地からの支援、とりわけ東アジア諸国からの支援が特に大きいものがありました。それらのご支援について、感謝の意を表するため、さらには復興への思いをアピールすべく、海外における観光誘客活動の第一弾として、「日韓交流おまつり2011 in Seoul」へ参加することになりました。

9月25日(日)に韓国ソウル市で行われました当イベントでは、両国の自治体や民間団体がブースを出展するとともに、日韓双方のお祭り等が披露され、多くの来場者で賑わいました。

本県は、震災等で被害を受けたいわき市、県内の宿泊施設関係者、スパリゾートハワイアンズ(フラガール)と一緒に、「観光PRブース」を出展し、



福島県観光PRブース



スパリゾートハワイアンズのダンスの様子

韓国に対する感謝の意を示すとともに、「福島県の大部分が、観光に支障がない地域であり、これまでと変わらぬ姿で韓国の皆様をお待ちしています」と強くアピールしてまいりました。

■ 今後の展開

今回の活動を通じて、直接来場者の方々に福島県の現状を始め放射線量に関する正確な情報を発信できる貴重な機会を得ることができました。その模様は日韓のメディアにも取り上げられ、本県が復興へ着実に歩んでいることを強く印象付けることができました。

その一方で、いまだ「本県全体が原子力災害で深刻な被害を受けており、通常の生活が行われていない」との誤ったイメージが韓国国内では大多数を占めているとも言われています。

今回の事業が、事実上の海外誘客活動再開の第一歩となりました。今後も本県の現状を積極的かつ継続的にPRすることで、韓国における福島県への心理的な障害を緩和し、国際定期便や、本格的なツアー再開へとつなげていきたいと考えています。

最後になりましたが、(財)自治体国際化協会経済交流課及び同協会ソウル事務所に多大なる御支援と御協力をいただきました。心より、感謝申し上げます。